




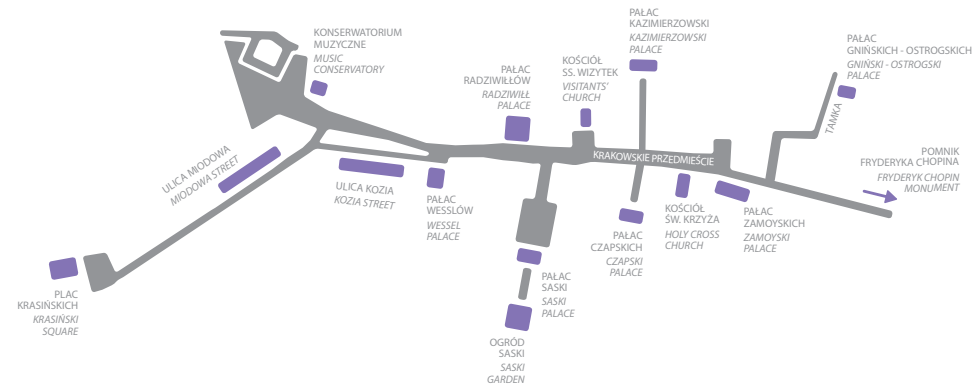
ワルシャワ  
Fryderyk Chopin

# 「フレデリック・ショパンのワルシャワ」のオーディオ・ガイド

オーディオ・ガイドについては、ワルシャワ市役所のホームページ[www.um.warszawa.pl/chopin2010](http://www.um.warszawa.pl/chopin2010)へどうぞ。ポーランド語・英語・日本語・ロシア語・フランス語・中国語・ドイツ語・スペイン語があります。

このオーディオ・ガイドをダウンロードすれば、ワルシャワのショパンゆかりの建物を自由に見られます。ここではサスキ公園、サスキ宮殿、カジメジヨフスキ宮殿、チャプスキ／クラシンスキ宮殿、ヴィズイトキ教会、ラジヴィウ／大統領宮殿、ワルシャワ音楽院、ミョドヴァ通りの喫茶店、クラシンスキ広場、コジャ通り、サスカ郵便局、聖十字架バシリカ小聖堂、ザモイスキ広場、ワジェンキ公園の14ヶ所を紹介しています。

 mp3オーディオ・ガイドの建物



ショパン・ベンチでマルチメディアにアクセス

のショパン・ベンチは、オーディオ・ガイドで紹介された建物の近くまたはフレデリック・ショパン博物館のそばにあります。これにはショパンゆかりの散策ルート(ショパン・ルート)が描かれていて、ほかのベンチの場所とQRコードも示されています。そしてそのQRコードを携帯電話で撮影すると自動的にマルチメディアへ無料でアクセスできるようになっています。またベンチにあるボタンを押すとショパンの曲が聞けます。

「ワルシャワ人に生まれ、心はポーランド人で、そしてその才能によって世界市民となったフリデリック・ショパン」

詩人、ツイプリアン・カミル・ノルヴィット

フリデリック・ショパンは半生をワルシャワで過ごしました。ワルシャワで教育を受けて成長し、没後彼の心臓は遺言通りワルシャワに戻りました。

ショパンは1810年3月1日にジェラソファ・ヴォラで生まれました。(ショパンが洗礼を受けたプロホフ教会の教区原簿の出生日は2月22日になっていますが、ショパンの誕生を覚えていた母親が毎年3月1日に祝っていたことから、この日の可能性が高いと言えます。)

1810年の秋にショパン一家はワルシャワへ移り住みました。フリデリックの父親がフランス語の教師としてワルシャワ高等学校に勤めることになったからです。その後ワルシャワでショパンはわずか6歳でピアノの勉強を始めました。そして、ピアニストで作曲家のヴォイチェフ・ジヴニが最初の先生になり、ショパンが誰よりも秀でた才能の持ち主であることに逸早く気がきました。またフリデリックは8歳になる前から作曲も始めていました。そしてすでに天才児としてワルシャワの貴族のサロンや慈善音楽会で演奏していました。1826年にはワルシャワ高等学校を卒業してワルシャワ音楽院に入学し、作曲学部のユゼフ・エルスネルに師事しました。エルスネルはショパンについて音楽院の卒業証書の成績欄に「すばらしい才能、音楽の天才」と書いています。

ショパンが最後にワルシャワで演奏したのは1830年で、同年11月末にはウィーンへ旅立ちました。そしてウィーンへ辿り着くと直ぐに「ポーランドで11月蜂起が勃発した」という知らせを受けました。ポーランドへ戻って戦いたいというショパンを彼の弱い体を心配する家族は説得し、ショパンはそのままウィーンに残ることになりました。そして1831年の秋にはパリへ移り、ポーランドへの郷愁を抱きながらその生涯を過ごしました。



ショパンは1849年10月17日に亡くなりました。そしてその遺体はパリのペール・ラシェーズ墓地に葬られました。が、ショパンの遺言によって彼の心臓だけはワルシャワに戻され、クラコフスキエ・プシエドミシチエ通りにある聖十字架バシリカ小聖堂に安置されました。



フレデリック・ショパンは最も有名なワルシャワ市民であることは確かです。彼はワルシャワで音楽を学び、友情を育み、知識を修得し、初めてのリサイタルもここで開きました。ですから当時ワルシャワの新聞には、天才児の誉れ高いショパンに関する記事がたくさん載っていました。ワルシャワはショパンの初恋も覚えています。特に王の道と呼ばれた通りに沿って散策すると、ショパンが住み、そして頻繁に足を運んでいた建物に出会います。

ショパン・ルートで最も重要な場所は、ショパンの心臓が安置されている聖十字架バシリカ小聖堂です。それにつづいて、ショパンの生誕200周年を祝って改装された「ショパン博物館」を挙げることができます。先端技術を導入したその博物館では、ショパンの貴重な資料を見学・体験できます。ワジェンキ公園にあるショパンの像も重要な場所です。毎年5月から9月まで毎週日曜日にショパン・リサイタルがそのそばで開かれ、大勢の人々がそれを聞きます。

### サスキ宮殿 (PAŁAC SASKI)



**第**二次世界大戦後に復元されなかった建物です。戦禍を免れた宮殿の一部であるアーケードには、現在は無名戦士の墓があります。

1810年秋にショパン夫妻(ユステynaとミコワイ)は、3歳のルドヴィカと7ヶ月のフレデリックを連れてサスキ宮殿へ移り住みました。当時この宮殿にあったワルシャワ高等学校で、フレデリックの父親はフランス語の教師を務めることになったからです。

ワルシャワ高等学校がカジミェジ・ジョフスキ宮殿へ移転する1817年まで、ショパンの一家はこのサスキ宮殿に住んでいました。



## サスキ公園 (OGRÓD SASKI)



クルレフスカ通り、マルシャウコフスカ通りとセナトルスカ通り、そしてピウスツキ広場に囲まれた公園です。

**サ**スキ宮殿はこの公園の敷地内にあったので、幼いフレデリックもきつとここで遊んだことでしょう。この公園はアウグスト2世王の提案で造られた、庭園と宮殿からなる公園の一部でしたが、シヨパンの時代にはイギリス風庭園に造り替えられました。





カジミェジォフスキ宮殿  
(PAŁAC KAZIMIERZOWSKI)




ul. Krakowskie Przedmieście 26/28

**1817**年になると、ショパン夫妻は長女のルドヴィカ、長男のフレデリック、次女のイザベラと三女・エミリアの子供4人を連れて、カジミェジォフスキ宮殿別館の3階にあるより広いアパートへ移り住みました。夫妻はそこで裕福な貴族の子弟のための有名な寮を運営していました。




エウゲニウシ・スクロツキは「あの寮は、経営者が貴族の子弟たちの健康に気を配り、きめ細やかな心遣いがされていて、食事もおいしく、そこに住む青年たちは純粋な道徳心を持ち、勉強に関して素晴らしい指導と支援を受けているという評判です。そして何よりも「ショパン家の経営する寮に住まわせてもらえる」ということは、「他の誰よりも教養があり、礼儀正しい人間である」ということを意味していました。そのことは皆が周知の事実でした。」と書いています。

別館の壁面には「1817年から1827年までこの建物にフレデリック・ショパンが住んでいた」と刻まれた記念プレートがあります。

“ポタニカ” (植物園)   
(現在のカジミェジョフスキ公園)


カロヴァ通り、プロヴァルナ通りとディナスイ通りに囲まれた敷地内にあります。

 ショパンの青年時代には、カジミェジョフスキ宮殿より低い場所に小さな植物園がありました。フレデリックは「家族はその鍵を持ち、遊んだり散歩するために利用している」と友人宛の手紙の中で書いています。

ワルシャワ高等学校に入学した頃に、ショパンは頻繁に“ポタニカ”へ寄り散歩や読書を楽しんでいました。

チャプスキ／クラシンスキ宮殿   
(PALAC CZAPSKICH)

ul. Krakowskie Przedmieście 5

 ショパンの一家は1827年到这里移り住みました。その正面となる別館にあったアパートに住み、フレデリックの部屋はその上階にありました。「上階には私の部屋があり、更衣室から階段で上ります。そして古いピアノと机があり、ここは私の隠れ家なのです」と友人ティトゥス・ヴォイチェホフスキ宛の手紙にショパンが書いています。





ショパン家の新しいアパートは、大勢の芸術家と科学者と若者で賑わっていました。楽団員とのリハーサルもそこで行われていました。1830年3月17日、22日と10月11日にワルシャワ国立劇場での初演に先立ち、同年1月にピアノ協奏曲第1番と第2番のプライベートコンサートが、友人や音楽家や時事評論家という限られた聴衆を前にしてチャプスキ／クラシンスキ宮殿のアパートで開かれました。



## ショパンのサロン (SALONIK CHOPINÓW)



ul. Krakowskie Przedmieście 5  
(美術大学の建物、グラフィックアート学部、3階)


tel.: 22 320 02 75  
chopin.museum/pl



開場時間:

月曜日～金曜日: 10:00-18:00


土曜日、日曜日、祭日、12月24日、美術大学の休校日には閉館

 ショパンのサロンはチャプスキ／クラシンスキ宮殿にあり、ショパンが祖国ポーランドを離れるまでの最後の数年間を過ごしたアパートの一部です。

このサロンは芸術家でショパンの友人であったアントニ・コルベルクの絵を基に1960年に復元されました。ここはワルシャワで見学できる唯一のショパンのアパートです。





ラジヴィウ宮殿 (PAŁAC RADZIWIŁŁÓW)   
(現在: 大統領宮殿)


ul. Krakowskie Przedmieście 46/50

の宮殿でわずか8歳のフレデリックは初めて聴衆の前で演奏しました。それはワルシャワ慈善協会主催の演奏会でした。

ラジヴィウ宮殿は17世紀半ばに建てられました。現在はポーランド共和国大統領官邸として使用されており、“大統領宮殿”とも呼ばれています。フレデリックの時代と同様、中庭への入口は4頭のライオンの石像が見守っています。またそこにあるユゼフ・ポニャトフスキ公爵の銅像は1965年に作られたものです。

大統領宮殿の見学はガイド付の団体のみ (Fax 22 695 11 09 まで要予約)




“RES SACRA MISER(哀れむことは聖なること)”の建物 

ul. Krakowskie Przedmieście 62

**1** 1823年2月24日にここで開かれたフレデリック・ショパンのリサイタルが終わると、ある新聞は「6番目の音楽のタペが終わると、我々はウィーンのリストを妬むことがなくなるのです。なぜならワルシャワは、リストに等しい或いはリストより優れた作曲家を誇ることができるから」と書きました。

このリサイタルを始め数多くの演奏会は、1818年からこの建物に移転してきたワルシャワ慈善協会によって開かれました。

建物の正面には、協会のモットー“レス・サクラ・ミゼル(哀れむことは聖なること)”が刻まれています。

ベルヴェデル宮殿 (BELWEDER) 

ul. Belwederska 52

**17**世紀に建設されたベルヴェデル宮殿は、ワジェンキ公園内にあります。ショパンの時代に宮殿は、ロシア皇帝アレクサンドル1世の弟で、ポーランド会議王国の軍総司令官コンスタンチン・パヴロヴィチ大公の官邸でした。天才児として有名なフレデリックは、しばしばベルヴェデル宮殿で大公のために演奏し、またある時には自作の行進曲をコンスタンチン大公に献上しました。


現在ベルヴェデル宮殿はポーランド共和国の大統領府が所有しています。ここでは大統領が賓客を迎え、多くの重要な会議などが行われています。ここでは「ユゼフ・ピウスツキ元帥」と「ポーランド軍ヴィルトゥーティ・ミタリー勲章のキャビネット」という2つの展覧会が準備されています。

ベルヴェデル宮殿の見学はガイド付の団体(10-30名限定)のみ

開館時間：9:00-15:00、月～金および指定の土曜日

電話：22 695 19 81 Eメール：[rezydencja.belweder@prezydent.pl](mailto:rezydencja.belweder@prezydent.pl)



ワジェンキ公園 — フレデリック・ショパンの像   
(ŁAZIENKI KRÓLEWSKIE)

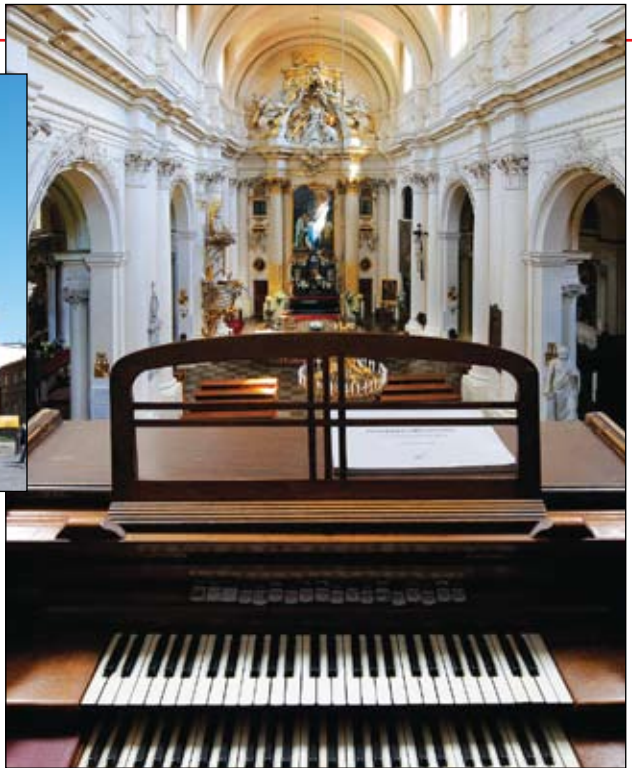
ウヤズドヴスキェ大通りとアグリコリ通り、そしてベルヴェデルスカ通りに囲まれた場所にあります。  
[www.lazienki-krolewskie.pl](http://www.lazienki-krolewskie.pl)

**ワ**ジェンキ公園はほぼワルシャワの中央にある、美しい庭園と宮殿からなる公園です。17世紀後半にバロック様式の浴場(ワジェンキ)が建てられ、後に宮殿に改築されたことから、その名が来ています。宮殿は水路に囲まれた島に建てられた、ワジェンキ公園最古の建物で、その他の建物は18～19世紀に建てられたものです。

1820年代までワジェンキ公園に一般市民は入れませんでした。しかしショパン家はコンスタンチン大公の息子とそのフランス語教師の娘と仲が良く、幼いフレデリックがそこで遊んでいた可能性は高いと言えます。

1926年11月14日にはワルシャワのシンボルの一つとなるショパンの像が除幕されました。





ヴィズイトキ教会  
(KOŚCIÓŁ WIZYTEK)



ul. Krakowskie Przedmieście 34  
[www.wizytki.waw.pl](http://www.wizytki.waw.pl)

シヨパンがワルシャワ高等学校に通っていた頃、学生のためのミサがヴィズイトキ教会で行われていました。シヨパンはそのミサでオルガンを弾き、その時に独唱していたコンスタンツィア・グワトコフスカと出会いました。そしてフレデリックとコンスタンツィアは恋に落ちました。シヨパンは後に、ピアノ協奏曲第2番のLarghettoに彼女へのその想いを込めたそうです。

聖歌隊席入口の傍には「1825～1826年にワルシャワ高等学校の学生の一人としてこの教会でオルガンを弾いていたフレデリック・シヨパンを偲んで」と刻まれた記念プレートがあります。



聖三位一体教会（アウグスブルクの告白の聖三位一体の福音教会）  
(KOŚCIÓŁ EWANGELICKO-AUGSBURSKI ŚWIĘTEJ TRÓJCY)



Pl. Małachowskiego 1  
[www.trojca.waw.pl](http://www.trojca.waw.pl)

**若**きフレデリックはこの教会の合唱団で歌っていました。1825年にはロシア皇帝アレクサンドル1世のワルシャワ訪問祝賀コンサートがここで開催され、当時15歳のショパンはカール・ブルーナーが発明した新楽器「エアロメロディコン」を弾いたそうです。

新古典主義様式のこの教会はローマのパンテオンに似ていて、その塔はワルシャワを見渡す展望台でした。しかしこれも第二次世界大戦中に破壊されてしまいました。後に忠実に復元されたこの教会の音響は相変わらず素晴らしいので、ショパンの時代と同様現在も音楽会がここで行われています。

ブェンキトネイ(水色)宮殿  
(現在ワルシャワ公共交通当局の本部)  
(PAŁAC BŁĘKITNY)



ul. Senatorska 37

シヨパンの時代にはこの宮殿はザモイスキ家の所有で、若きフレデリックは幾度もそのサロンで演奏しました。それは首都ワルシャワの最も重要なサロンの一つで、政界と芸術界の著名な人々がそのサロンに集まっていました。この宮殿は17世紀に建設されたものです。



“ホノラトカ” (HONORATKA)



ul. Miodowa 14

[www.honoratka.com.pl](http://www.honoratka.com.pl)

“ホノラトカ”は唯一現存するフレデリック・ショパンお気に入りの喫茶店です。その時代にここには若き愛国主義者が集い、その中にヨアヒム・レヴェルを始め、クサヴェリ・ブロニコフスキ、ピョートル・ヴィソツキ、マウリ当時この喫茶店で人気のメニューはラム酒入りのコーヒーと高級なデザートでした。現在は19世紀のレシピ通りの料理とデザートとアルコール、それにショパン風のメニューが準備され、ショパンの音楽が流れる午後のティータイムも楽しめます。



ヴェッセル宮殿 (PAŁAC WESSLÓW)  
(旧サスキ郵便局)



ul. Krakowskie Przedmieście 25

**昔** この宮殿は王立郵便局(別名ポーランド郵便局)として利用され、その隣には郵便馬車の発着所がありました。ここから1830年11月2日にフレデリック・ショパンは家族に見送られて出発し、再び祖国ポーランドに戻ることはありませんでした。また彼の見送りはヴオラ地区の通行税を徴収する税関の前でも行われました。そこでフレデリックの友人たちはエルスネル教授の指揮で彼を見送るために用意したカンタータを演奏し、彼を非常に驚かせたそうです。





ザモイスキ宮殿  
(PAŁAC ZAMOYSKIEGO)



ul. Nowy Świat 67 i 69

フレデリックの妹イザベラはこの宮殿の一室を借りていました。彼女は有名な兄の形見を数多く持っていました。ロシア皇帝指揮下の軍人はこの部屋の窓からフレデリックのピアノを投げ捨ててしまいました。当時の著名な詩人ツィプリアン・カミル・ノルヴィットが『ショパンのピアノ』という詩でその出来事を記述しています。

聖十字架教会 (KOŚCIÓŁ ŚWIĘTEGO KRZYŻA)  
(現在: 聖十字架バシリカ小聖堂)



ul. Krakowskie Przedmieście 3  
[www.swkrzyz.pl](http://www.swkrzyz.pl)

ショパンの姉ルドヴィカがフランスから持ち帰ったショパンの心臓を納めた壺は、この聖十字架バシリカ小聖堂の祭壇に向かって左側の柱に安置されています。現在その柱には「あなたの宝がある場所にあなたの心もある。ポーランド国民がフレデリック・ショパンに捧げる」と刻まれています。バロック様式のこの教会はワルシャワの最も美しい史的な建物の一つです。教会の扉の前には十字架を背負っているキリストの像があります。





DOMINIKANSKÝ KLÁŠTER A KATEDRÁLA SV. DOMINIKÁNA



旧ポヴァンスキ墓地にあるフレデリック・ショパン  
の両親の墓 (POWAŻKI)



ul. Powązkowska 14

**旧**ポヴァンスキ墓地はワルシャワで最も古  
く、大勢のポーランドの著名人と功労  
者がここに眠っています。数千に及ぶ墓石の  
大半は重要な史跡です。

ショパンの両親の墓は、ポーランドの作曲家として有名なスタニスワフ・モニュシコの墓と隣り合う、第9地区  
(9-IV-1)にあります。彼の姉妹もここに埋葬されています。



オストログスキ宮殿 — フレデリック・ショパン博  
物館 (MUZEUM FRYDERYKA CHOPINA)



ul. Tamka 41

tel. 22 441 62 51

chopin.museum/pl

開場時間

博物館:

火曜日～日曜日 12:00-20:00

チケット売り場:

月曜日～日曜日 11:00-20:00



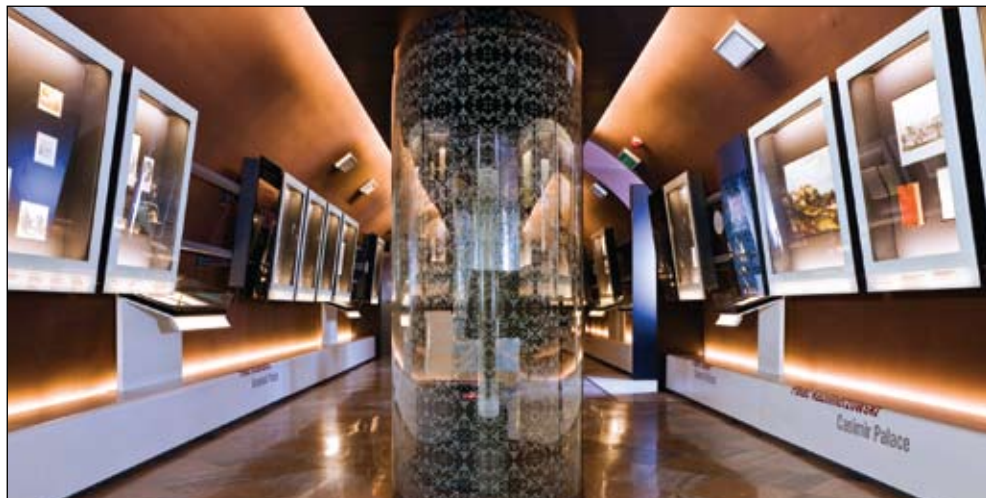
**博**物館は、昔はヴィスワ川の古い岸辺の垂直に切り立った岩壁の上に建つ、バロック様式のオストログス  
キ宮殿にあります。博物館の歴史は1930年代に始まりました。1935年に当時の高名な文化人によ  
って設立されたフレデリック・ショパン研究所は、ショパンの親戚から貴重な自筆の楽譜を十数枚もらい、シ  
ョパンに関するコレクションを始めました。

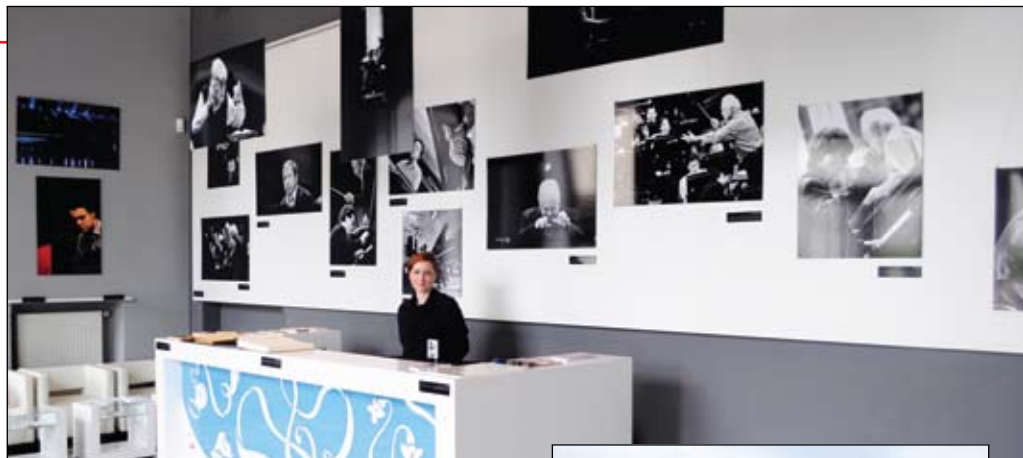
現在博物館にはショパンに関する世界一の規模のコレクションがあります。それには自筆の楽譜、メモや書簡、そして多くの所持品と実際に使われていたピアノが含まれています。その中でもショパンのデスマスク2点と手型は、大変貴重で印象深い展示品です。

オストログスキ宮殿内を改装したフレデリック・ショパン博物館は、ヨーロッパで最も現代的なショパン伝記博物館です。マルチメディアとタッチ・パネルを採用した展示は、現実と想像の世界を融合させています。この不思議な世界への入場券は電子カードになっています。それを使って数ヶ国語の説明や音楽を聞くこともできます。

博物館は子供から大人まで観光の方から研究する方にも、あらゆる皆様楽しんでいただけます。また独自の展示ルートで見学することもできます。

15の展示室は独立したミニ博物館になっています。そこでショパンが住んでいたアパートの内装を見学したり、当時のワルシャワを散歩し、ショパンの知っていたパリの雰囲気を経験し、ノアの鳥の鳴き声を聞き、ショパンの好きなスミレの香りを嗅ぎ、彼の愛した女性たちと出会い、ショパンの音楽を聞くことができます。そして最後には大きな黒い箱を模した「ショパンの死の間」も見学できます。





## コルデガルダ (KORDEGARDA)

ul. Krakowskie Przedmieście 15/17  
tel. 22 421 01 25  
[www.chopin2010.pl](http://www.chopin2010.pl)



### 開場時間

5月～9月：	火曜日～日曜日	11.00～21.00
10月～4月：	火曜日～日曜日	11.00～19.00

**2010**年の「ショパン年」を記念して、大統領宮殿の向かい側には「コルデガルダ2010」というショパン情報センターが設けられました。これは「ショパン2010」祝賀行事局とワルシャワ観光局が協力して準備したものです。そして来年以降もこのコルデガルダは他の出来事や記念行事のために利用される予定です。尚2011年にはポーランドのノーベル賞受賞者のマリア・スクワドフスカ＝キュリーとチェスワフ・ミウォシュが主役になる予定です。

コルデガルダでは記念行事情報や一般観光情報も提供しています。ポーランドとワルシャワに関する出版物やお土産もあり、様々な展覧会もそこで見学できます。

21世紀と19世紀はかけ離れていますが、今でもワルシャワにはショパンの存在とその面影を見つけることができます。この素晴らしい作曲家と関係のある建物の記念プレートは、最も有名なワルシャワ市民であったショパンを思い出させてくれます。

ところでショパン直筆の多くの手紙を読むと彼の好きな場所がわかります。ミョドヴァ通りはその一つです。ショパンの時代には多数の書店と楽器屋がそこに並んでいました。彼は頻繁にそこへ足を伸ばし、中でも一番のお気に入りには本と楽譜を置いていたアントニ・ブジェジナの書店で、フレデリックは常連客でした。

またその近辺には、若い知識人が芸術論を永遠と続けていた多くの喫茶店もありました。“ホノラトカ”以外にも、ミョドヴァ通りとクラコフスキェ・プシエドミエシチェ通りの角にあったと書かれている“ブジェジンスカ夫人の喫茶店”に、ショパンは殆ど毎日顔を出していたそうです。



Aus den Sammlungen des Nationalen Stadtarchiv Warschau

# 音楽

ショパン国際ピアノ・コンクール

[konkurs.chopin.pl](http://konkurs.chopin.pl)

**世**界で最も伝統のある有名なピアノ・コンクールの一つです。1927年を皮切りに5年毎に開催されていますが、第二次世界大戦中は一時中断されました。

コンクールの創案者は、ショパン音楽の普及に努めていた有名なピアニストのイェジ・ジュラヴレフ教授でした。



このコンクールは一流のピアニストへの登竜門であり、その優勝者はもとより、参加者全員に栄誉が与えられる、いわば絶えず人々の関心を惹き付けるコンクールなのです。

「ショパンと彼のヨーロッパ」国際音楽祭

[www.chopin.nifc.pl](http://www.chopin.nifc.pl)

この音楽祭は2005年に始まり、19世紀および現代の音楽をベースにショパンの曲を紹介しています。

そしてポーランド内外の有能なピアニストたちが演奏しています。その充実したプログラムには、ピアノリサイタル、室内楽、交響楽、声楽リサイタルなどがあります。



ワジェンキ公園のショパン・コンサート  
(ŁAZIENKI KRÓLEWSKIE)

[www.lazienki-krolewskie.pl](http://www.lazienki-krolewskie.pl)

— の野外ピアノリサイタルは、5月から9  
月まで毎週日曜日12:00と16:00  
に開催されます。夏季のワルシャワで最  
も有名な音楽イベントとして毎回人気を  
博しています。



フレデリック・ショパンの作品への解釈を深める国際マスターコース

[www.chopin.edu.pl](http://www.chopin.edu.pl)

**夏** 期休暇中に開催されます。十数日にわたるその講習には、全世界から意欲溢れるピアニストたちが参加し、ワルシャワ音楽大学の優れた教授の指導でショパンの作品への解釈を深め腕を磨くのです。

ワジェンキ公園にある士官候補生学校でのリサイタル

[www.lazienki-krolewskie.pl](http://www.lazienki-krolewskie.pl)

『ショパン・音楽・手紙』と題されたこのショパンリサイタル・シリーズは、毎週日曜日の12:00に開かれます。その際有名な俳優がショパンの書いた手紙を朗読します。入場は無料です。

## フレデリック・ショパンのマゾフシェ地方

フレデリック・ショパンの生家 / フレデリック・ショパン博物館附属のジェラ  
ゾヴァ・ヴォラ博物館

Żelazowa Wola 15  
tel. 46 863 33 00  
chopin.museum/pl

開場時間：  
火曜日～日曜日 9:00 -17:00 (但し月曜日の見学は公園のみ)



フレデリック・ショパンは、ワルシャワから西へ50kmほどのジェラゾヴァ・ヴォラにある貴族スカルベク家の屋敷の別館で生まれました。

しかし木造だった屋敷は火事で全焼し、その後1930年代に別館がロマンチズムの様式で復元されました。そして2010年のショパン年にはジェラゾヴァ・ヴォラ博物館として新しくオープンしました。モダンなパビリオンが2つ建てられ公園も整備され、新しい展示も始まりました。その展示ではイコノグラフィーを基に、この博物館の歴史とその活動に携わってきた人物を紹介しています。

ここでは5月から9月までの毎週日曜日12:00と15:00にコンサートが開催されています。



プロホフの教会 (KOŚCIÓŁ W BROCHOWIE)  
ジェラソヴァ・ヴォラから10kmの場所にあります。

[www.brochow.pl](http://www.brochow.pl)

**1** 810年4月23日にプロホフの教会でフレデリック・ショパンは洗礼を受けました。また1806年には彼の両親が、そして1832年には姉・ルドヴィカもここで挙式しています。この教会はポーランドで最も貴重な要塞建築の一つです。最近修復された教会は内装も外観も立派です。



サンニキのフレデリック・ショパン欧州芸術センター  
庭園と宮殿からなる公園 (PAŁAC W SANNIKACH)

Sanniki, ul. Warszawska 142  
[www.palacsanniki.pl](http://www.palacsanniki.pl)  
tel. 24 277 78 27

**シ**ョパンは、サンニキに住んでいた同級生コンスタンティ・ブルシャクの家で何度も夏休みを過ごしました。サンニキ地方の豊かなフォークロアがフレデリックにインスピレーションを与えていたことは、彼の書簡でも立証されています。現在は宮殿も公園も工事のために見学できませんが、公園は2011年4月に、そして宮殿は2011年12月に公開される予定です。



ショパン・ルートはワルシャワからマゾフシエ地方まで続いています

**マ**ゾフシエ地方はショパンが幼年の頃過ごした場所です。彼はここで生まれ洗礼を受け、夏休みを過ごし民族音楽を愛したのです。ドブジンスカ地方のシャファルニャへ向かった時には、チエルヴィンスク、ヴィシヨルトやプウォツクへ足を伸ばし、ドゥシュニキへの途中に他の町にも泊まっていたかもしれません。

ショパンの足跡を辿る時、彼に関連する場所には統一された表示や案内標識が準備されているので、楽に観光できます。その他にも「Navigo Chopin Tour」というインターネットのGPS(グローバル・ポジショニング・システム)も用意されています。



www.warsawtour.pl  
www.um.warszawa.pl  
www.chopin2010.pl



ワルシャワ観光案内所

WARSZAWSKA INFORMACJA TURYSTYCZNA

tel. (+48) 22 194 31, (+48) 22 474 11 42

e-mail: info@warsawtour.pl

ワルシャワ観光案内所代理店に関する現情報は、ホームページ  
[www.warsawtour.pl](http://www.warsawtour.pl)をご覧ください。

発行所：

ワルシャワ市観光事務所 (Stoleczne Biuro Turystyki)

写真：

ワルシャワ市国立資料館所蔵、ワルシャワ観光局、環境保護局、  
ワルシャワ市国立記録保管所、W.ハンセン、W.パヌフ

編集：Agencja Reklamowa [www.grupastart.pl](http://www.grupastart.pl)

2010年第2版 ワルシャワ市刊行  
非売品